

原・水爆反対宣言

原子力の解放は人口太陽の出現と言われている。しかしこの原子力が一度兵器として用いられる時、それは実に全人類の破滅を意味する。

日本は第二次世界大戦において人類最初の原爆の犠牲となり、この生々しい記憶が消えない今日、またビキニの灰の被害を受け、原水爆の残虐さをつぶさに体験したのである。その害悪の範囲の広さ、持続性の長さを思うとき、原水爆使用禁止の声が我が国に満ちているのはまことに当然のことである。

特にわれわれ日本バプテスト連盟に属するものは基督者として、この残虐きわまりない原水爆の使用に絶対的に反対するばかりでなく、その製造及び実験が即時中止せられ、既に保有されている原水爆は直ちに国際管理下に置かれることを要望して止まない。

原子力の平和的利用はもとより、望ましい事であるが、むしろ原子力が精神界に爆発して信仰の連鎖反応が起こらんことこそ、われわれの切なる祈りである。

右日本バプテスト連盟第八回の年次総会の名において宣言す

昭和二十九年七月三十日